

A Kyocera and Kobe Steel joint company



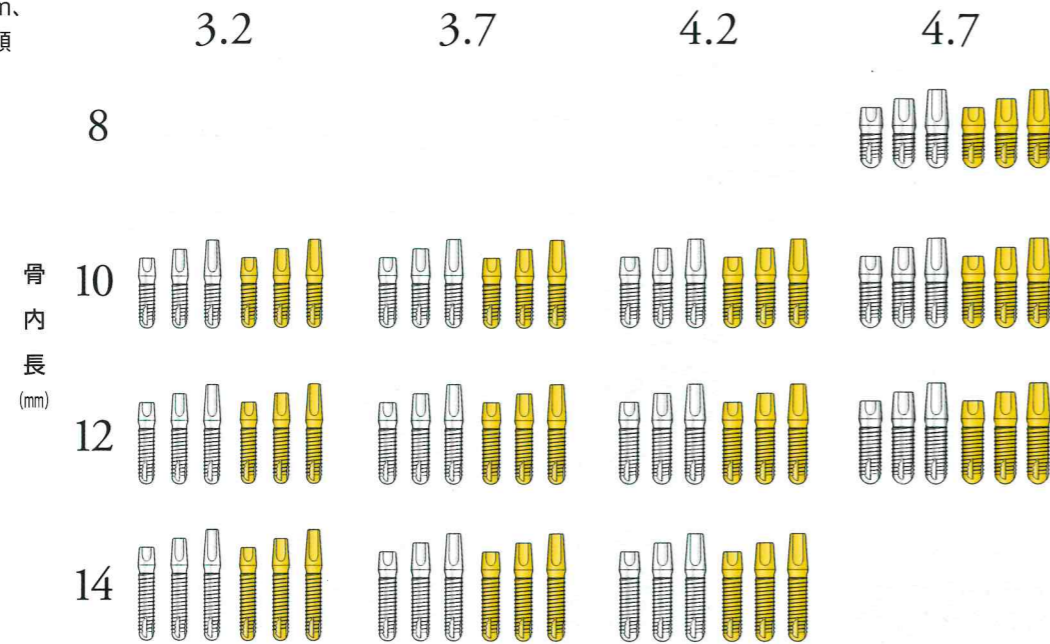
Ver.1.2



1ピース フィクスチャー (FINAFIX/FINATITE)

ポスト部の高さは、4mm、6mm、8mmの3種類があります。

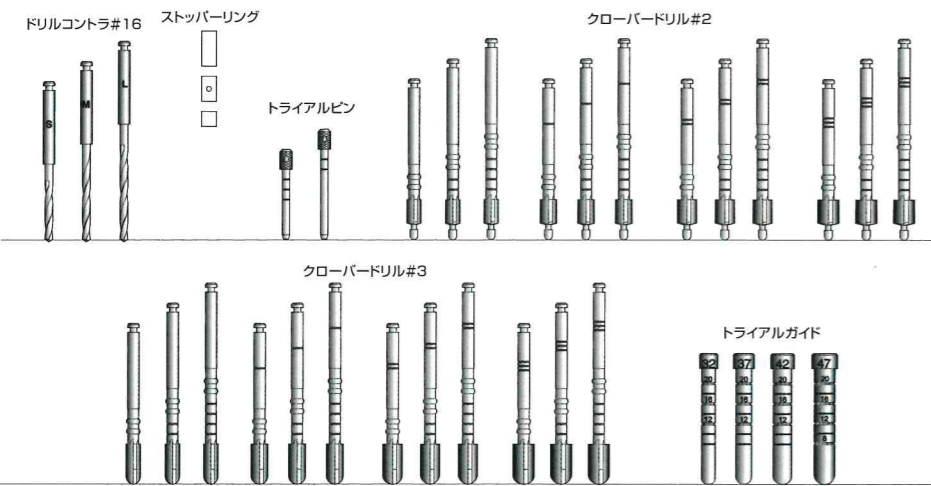
フィクスチャーネジ部直径 (mm)



医療用具承認番号: POIファイナフィックス 20300BZZ00313000
POIファイナタイト 20500BZZ00083000

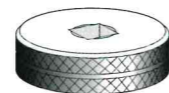
インスツルメント

クローバードリル・システム



ドリルは外部注水タイプのクローバードリル・システムと、内部/外部注水併用のキャノンドリル・システムの2種類が準備されています。

ドライバーホルダー

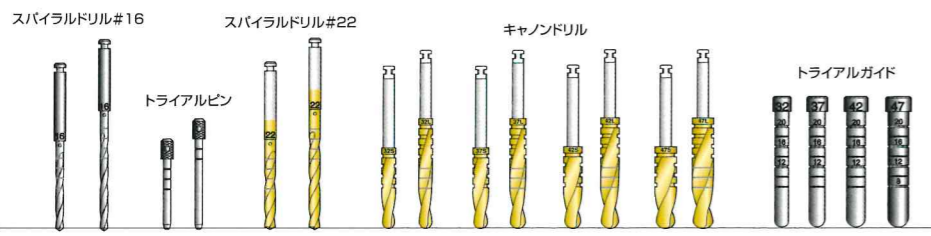


ドライバーエクステンダー1P



医療用具許可番号: 25BZ6009

キャノンドリル・システム

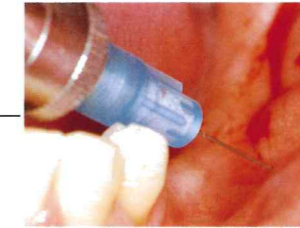


本マニュアルではフィクスチャーの植立術式と補綴処置について解説していますが、インプラント治療では術前の診査・診断や術後メンテナンス等も良好な予後を得るために大変重要となります。これらの詳しい内容につきましては「POIシステムマニュアル」をご参照下さい。

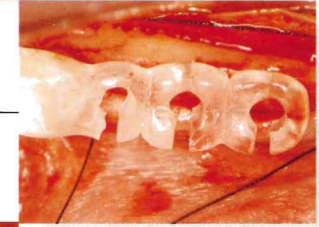
1.インプラントの植立術式

フィクスチャーの植立術式は通常以下の流れで行います。

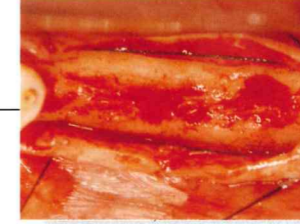
口腔内外の消毒/局所浸潤麻酔



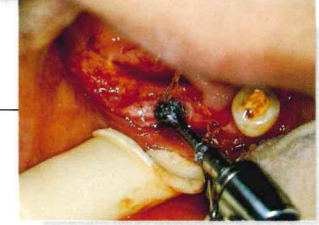
ステントによる植立位置の確認、マーキング



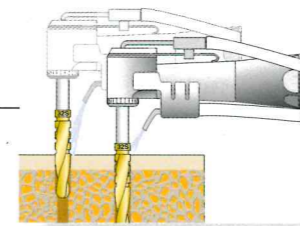
歯槽粘膜の切開、フラップ形成



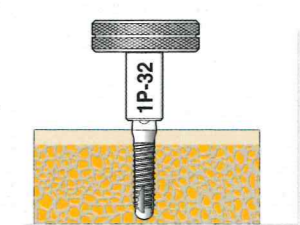
歯槽骨頂の整形 (必要に応じて)



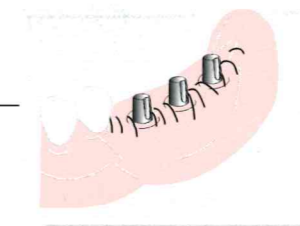
フィクスチャー窩の形成 (P3~4)



フィクスチャーの植立 (P5)



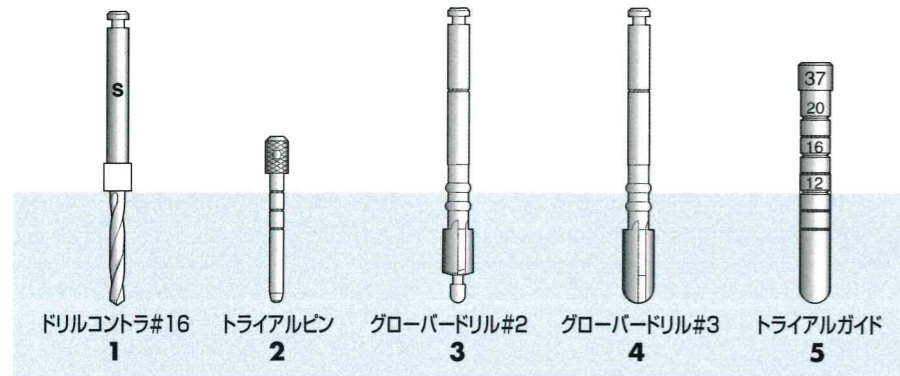
歯槽粘膜の縫合



2.フィクスチャー窩の形成

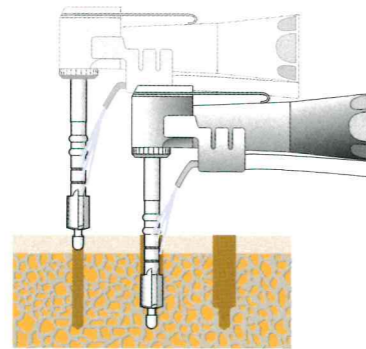
POIシステムでは、フィクスチャー窩形成のための専用器具として、外部注水用のクローバードリルシステムと内部注水対応のキャノンドリルシステムが準備されています。これらの専用器具は2ピース、3ピースフィクスチャーの植立、埋入に共通して使用することができます。

2-1 クローバードリルシステム



1.ドリルコントラ#16にストッパーリングを組み合わせて、植立を予定しているフィクスチャーの埋入深さまでパイロットホールを形成します。

インプラント窩を形成するためのドリリングは、骨の火傷を防ぐために、約800～1,000回転/分の低速で、十分な注水下で行います。



- 2.トライアルピンをパイロットホールに挿入して植立方向、深さを確認します。
- 3.クローバードリル#2の先端をパイロットホールに挿入し、パイロットホールをガイドにしてインプラント窩を形成します。
- 4.クローバードリル#3を用いてインプラント窩の底部を形成します。その際、まずクローバードリル#3を回転させずにクローバードリル#2で形成されたところまで挿入した後、回転させ所定の深さまで切削します。
- 5.トライアルガイドを用いて試適し、インプラント窩が正しく形成されたことを確認します。

重要

ドリル類の交換について

常に快削性を保つために、ドリルコントラ#16、クローバードリル#2、#3は5回程度、スパイラルドリル、キャノンドリルでは10回程度使用した時点で新品と交換して下さい。ただし、通常より硬い皮質骨を切削した場合は、早めに交換される事をお勧めします。消耗したドリルの使用は発熱や不正確な窩洞形成の原因となります。

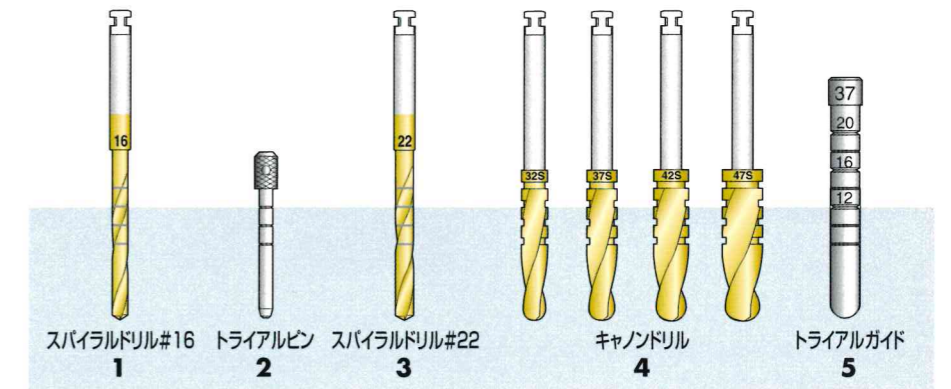
重要

フィクスチャー窩形成のドリリングにあたっては、低速・高トルクの手術用マイクロモーター（インプランターNeo）を用いて、800～1000回転/分で十分な注水下で行います。



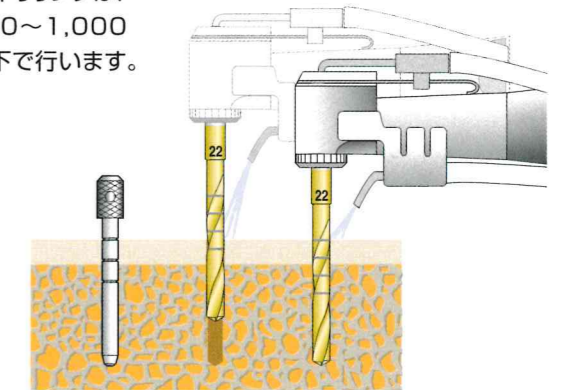
インプランターNeo

2-2 キャノンドリルシステム（内部注水対応）



1.スパイラルドリル#16を用いて、植立を予定しているフィクスチャーの埋入深さまでパイロットホールを形成します。

インプラント窩を形成するためのドリリングは、骨の火傷を防ぐために、約800～1,000回転/分の低速で、十分な注水下で行います。



- 2.トライアルピンをパイロットホールに挿入して植立方向、深さを確認します。
- 3.スパイラルドリル#22を用いてインプラント窩を拡大します。
- 4.植立するフィクスチャーの径にあった太さのキャノンドリルまで順次用いて、インプラント窩を拡大します。
- 5.トライアルガイドを用いて試適し、インプラント窩が正しく形成されたことを確認します。

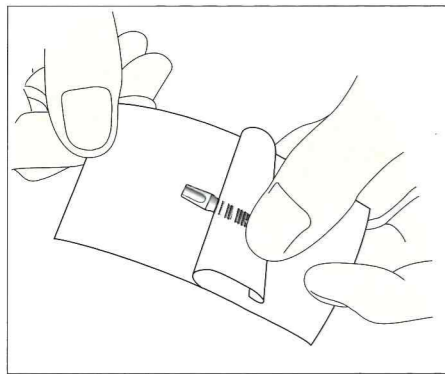
3.フィクスチャーの植立



1.フィクスチャーのタイプ・サイズを確認し、中からプリスター・バックを取り出します。

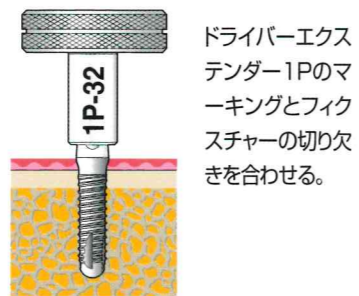
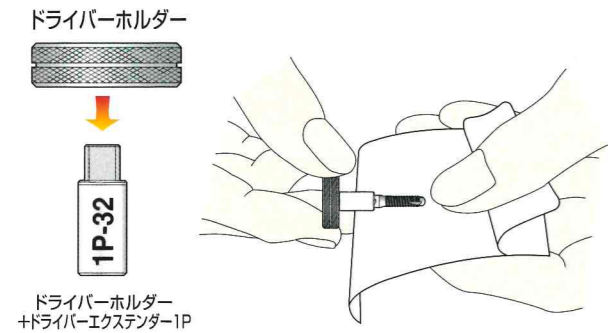


フィクスチャーは二重滅菌包装されています。γ線滅菌処理が施されているので取り出してそのままご使用下さい。



2.フィクスチャーに直接触らないよう注意しながら、滅菌バックからポスト部を露出させます。

3.ドライバーホルダーに、フィクスチャーの径に合ったドライバーエクステンダー1Pを装着します。露出させたフィクスチャーのポスト部にドライバーエクステンダー1Pをまっすぐ差し込み、確実に把持されたことを確認した後、口腔内に運搬します。



ドライバーエクステンダー1Pのマーキングとフィクスチャーの切り欠きを合わせる。

4.ドライバーホルダーを回転させフィクスチャーを植立します。フィクスチャーのねじ部が口腔内に露出せず、予定した深さまで埋入されていることを確認し、ドライバーを取り外します。

注意

本フィクスチャーは厳重な洗浄・滅菌のうえ、提供しております。いかなる方法によっても再滅菌による使用はおやめ下さい。

重要

ドライバーエクステンダー1Pがかみ込んで、取り外せない場合は、フィクスチャーが回転しない程度で、ドライバーに逆方向の力を加え取り外します。

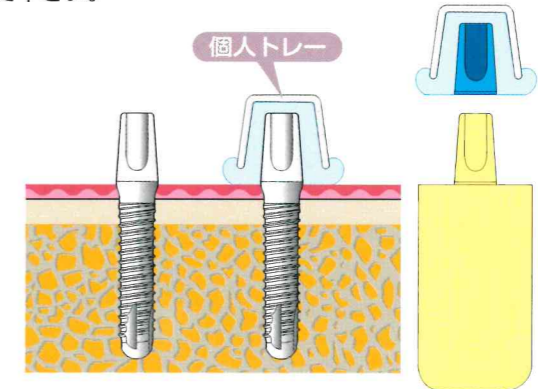
4.上部構造の作製

4-1 ポスト部の直接印象・石膏支台模型作製

以下の用途のために、石膏支台模型を作製します。

- ・プロビジョナル・クラウン／ブリッジ作製
- ・最終補綴物作製
- ・個人トレー作製

ポスト部を適法に準じて印象採得します。印象面を精査し、石膏を注いで作業用模型を得ます。最終補綴物の作製にあたっては、精密な作業模型が必要となります。個人トレーを準備し印象を行って下さい。

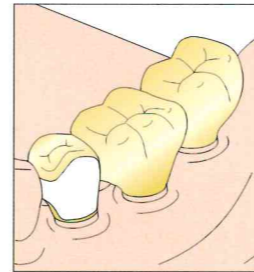


4-2 セメント固定式最終補綴物の作製

インプラント上部構造体の補綴設計は、プロビジョナル・クラウン／ブリッジの臨床経過から得られた適正な咬合状態、清掃性、審美性、発音等の知見を十分に反映した形態とする必要があります。

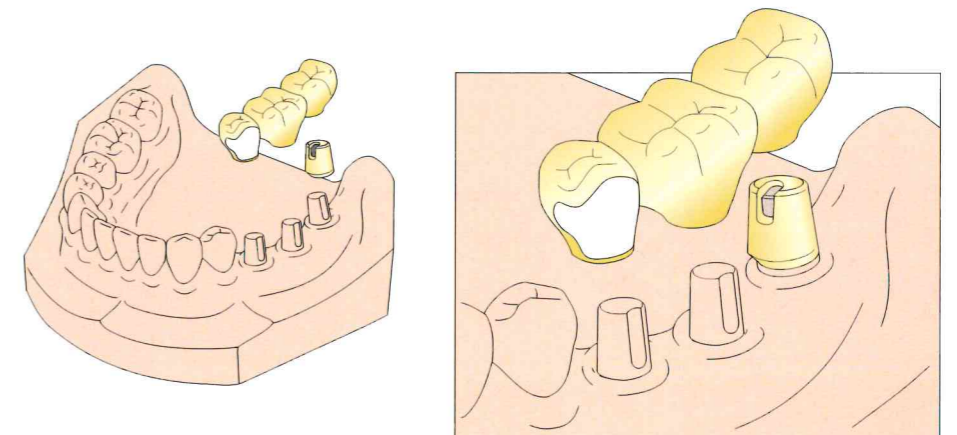
セメント固定式補綴物は、印象直接で得られた石膏歯台模型上で作製します。

参考 ポストを含む支台歯間で平行性が得られていない場合は、内冠による歯軸の修正が必要となります。



重要

適正な予後を示すPOIインプラントは、顎骨にしっかりと支持されますので、天然歯の場合に比べ、よりフレーム強度が高く、適合精度の良い上部構造体が求められます。



A Kyocera and Kobe Steel joint company

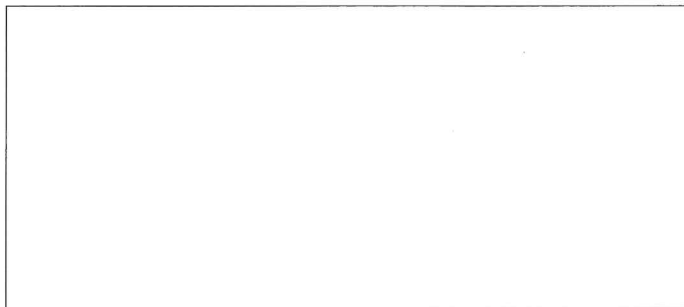


日本メディカルマテリアル株式会社 <http://www.jmmc.jp/>

大阪市淀川区宮原3丁目3-31(上村ニッセイビル9F) 〒532-0003
Tel:06-6350-1036 Fax:06-6350-5736

商品に関するお問い合わせは下記営業所まで

- 東京営業所 東京都新宿区西新宿2丁目4-1(新宿NSビル10F) 〒163-0810
Tel:03-5339-3627 Fax:03-3343-3096
- 名古屋営業所 名古屋市東区葵3丁目15-31(住友生命千種ニュータワービル9F) 〒461-0004
Tel:052-930-1480 Fax:052-938-1388
- 京都営業所 京都市下京区西洞院通塩小路上ル東塩小路町608-9
(日本生命京都三哲ビル3F) 〒600-8216
Tel:075-353-4363 Fax:075-343-3118
- 大阪営業所 大阪市淀川区宮原3丁目3-31(上村ニッセイビル8F) 〒532-0003
Tel:06-6350-1007 Fax:06-6350-8157
- 九州営業所 福岡市博多区博多駅東2丁目10-35(JT博多ビル7F) 〒812-0013
Tel:092-452-8148 Fax:092-452-8177



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



※このカタログは環境にやさしい大豆インキを使用しています。

■禁無断転載、複写

A2T050124T [S-573-2] 010164